久保田市長の全力投球 第57回

震災15年と津波への備え

記憶をつなぐ現場から

今年の3月で東日本大震災から15年を迎えました。改めて犠牲となられた方々に哀悼の意を表すとともに、その教訓を決して風化させてはならないと強く感じています。3月7日には、大渕海岸防災林で開催された「掛川潮騒の杜（もり）植樹祭」に参加しました。平成24年度から続くこの取り組みは、これまでに約10万本を植樹し、今年も約120人の皆さんが集まり、750本の苗木を丁寧に植えました。一本一本の木に、防災への思いが込められています。

被災地での経験から

私は、津波被災地である陸前高田市で復興に関わった経験があります。現地で見た光景や、そこで出会った方々の言葉は、今も強く胸に残っています。中でも、「二度と私たちのような経験をしてほしくない」という被災者の皆さんの声は、私にとって忘れることのできないものです。その思いを受け止める責任があると感じ、防潮堤や防災林の整備に力を注いできました。

市では、海岸防災林による津波被害軽減を目的に整備を進めており、市施工分が令和7年度末で、計画延長約9キロのうち95%が完成、今年度には100%完成する見込みです。これは当初計画より2年前倒しでの達成となります。

協働で築いた防災のかたち

ここまでの進捗（しんちょく）は、地域の皆さんをはじめ、国土交通省や静岡県、そして盛り土材の提供や寄付、植樹活動に参加いただいた企業の皆さんのご協力の賜物（たまもの）です。スズキ株式会社をはじめとする企業や、NPO法人時ノ寿の森クラブの皆さんと共に進めてきたこの取り組みは、市民協働・共創による「掛川モデル」として形になりました。

未来へ備える

震災の記憶を次の世代へ伝え、備えを続けることが私たちの責任です。今後は県施工分完成にあわせ、防潮堤整備の締めくくりとなる植樹祭も計画しています。多くの市民の皆さんにご参加いただき、共に未来への備えを形にしていきましょう。

地域おこし協力隊通信 vol.29

問 くらしデザイン課（☎21・1209）

※地域おこし協力隊は、総務省が推進する地域活性化の一環で、地域資源の発掘と持続可能な発展を目指す取り組みです。

♪夏も近づく八十八夜。「八十八」を組み合わせると「米」の字になることから、農家では実り多い稲作の準備期間とされ、気候が安定し茶摘みの目安にもなる、縁起の良い日です。

「八十八夜まで、今日は立春から何日目だろう?」と、昔の人は夜を数えながら過ごしていたのでしょうか。

掛川で暮らし、お茶を飲む回数が増えると、土地に根ざした風習にも自然と興味がわいてきます。

弁天大橋の落書き清掃活動

ナショナルサイクルルートにも指定されている太平洋岸自転車道の「弁天大橋」で、落書き清掃とモニュメントの再塗装ワークショップを行いました。遠州横須賀凧（たこ）巴会や地域有志の皆さんの参加・協力により、橋に彩りがよみがえりつつあります。

かけがわ国際女性マンス2026

3月8日の国際女性デーに合わせ、とうもんの里でミモザの花を添えた「しおり風ミニブーケ」をプレゼントしました。

新聞やテレビでも紹介され、多くの方にご来場いただきました。

地域おこし協力隊活動報告会

2年目の活動報告をポートカケガワで実施しました。活動時の写真スライド発表に加え、近隣エリアのまちづくり事例にも触れながら、市町ごとの特性や移住者視点での魅力についてお話ししました。

自主企画グッドニュースカケガワ

2024年に正式オープンした「SK駅前ホール」で、地域の工芸とカルチャーを掛け合わせたイベントを企画・開催しました。新たな文化体験や交流のひとときをデザインし、市内外から100人を超える方にご参加いただきました。

とうもんの里
総合案内所にて撮影